

すべては子どもたちの笑顔のために!

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2026年(令和8年)4月1日

会報 第143号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

(AAC21) ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【本部事務局】〒369-1246 埼玉県深谷市小前田1552-1
TEL 048-580-7048 FAX 048-580-7049
E-mail info@aac21.net

【カンボジア事務所】Royal park condo, Street 608, Toul kok,
Phnompenh, Cambodia
(855) 17-599-707

【ホームページ】 [カンボジア支援](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#)



カンボジア井戸建設400基達成

前回の会報(巻頭言)で報告したが、昨年9月に完成した井戸でその数400基を達成した。

1月21日からのカンボジア訪問で改めて小学校を訪問、生徒たちと達成を祝った。

2003年からカンボジアで井戸を掘り始めたので、毎月1基以上を作ってきたことになる。

井戸建設を支援して下さった多くの皆様に心より感謝するとともに、井戸を必要とする地域はまだ沢山あるため、更なるご支援をお願いしたい。



井戸建設400基達成しました

平古場副理事長と及川理事がカンボジア訪問



会から学用品セットを寄贈しました

1月5日~19日、平古場副理事長と及川理事がカンボジアを訪問した。訪問期間中に、本会が教育支援する「サンハックサットレイクメイ小学校」(コンボンスプー州ウドン郡)で出前授業を行い、日本の歌を披露したりして生徒たちと交流した。

この他里子訪問活動や、平古場副理事長が「オリンピックスタジアム」で柔道の練習をしているカンボジアの青少年を対象に指導を行った。

「カンボジアフェスティバル2026」に出店します

恒例になりました「カンボジアフェスティバル2026」が5月3日(日)と4日(月)の2日間、東京都内の「代々木公園イベント広場」で開催されます。本会も出展しますので、お出かけになってください。また、当日お手伝いして下さる方を募集中ですので、ご一報願います。

開催時間は両日とも10時~17時になります。

年相応にマイペースな活動を



NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会

理事長

根岸恒次

1月21日~2月17日、カンボジアを訪問しました。4週間の旅です。

寒波襲来で寒い日本から暖かい国での数週間、役得とは言え申し訳ない気持ちでしたが、慣れない異国での暮らしもまた大変ですので、お互い様と言った所です。

実は昨年12月と今年1月、子どもの頃から仲良く遊んだ従兄弟が相次いで旅立ちました。大勢いる従兄弟ですが、既に半分を見送りました。やがて私もいつかは見送られる立場になります。その時に悔いを残さぬよう、カンボジアで精一杯汗をかいてきました。

1月21日の出発は成田国際空港からインチョン経由のアシアナ航空便でしたが、のっけから出発が2時間遅延、インチョンからの乗継便にからうじて間に合いました。

初めて降りた「プノンペンテチョ新空港」はとても広く、高齢者や足

の悪い方には使いにくい空港ですが、これも慣れるまでの辛抱です。

活動初日は、佐々木テルさんが12年前に寄贈した小学校訪問、佐々木さんが生徒たちにお菓子をたくさん寄付してくれ気を良くしていた所、借りたレンタカーがエンストしてしまい、帰りは佐々木さんの娘さん夫婦に車の荷台に乗ってもらい、ホテルに戻るハプニングに見舞われました。That's Cambodjaiです。

さてこの旅から、一日おきの活動にしました。若い頃は連日のように活動していましたが、年相応にゆっくり目のペースに。

今回も大勢の会員さんが活動を共にしてくれましたので、会員さんに助けられました。感謝です。

さてカンボジア情勢です。皆さんも報道をご覧になっているかと思いますが、先ずは隣国タイと

の紛争、昨年末に停戦協定

が結ばれましたが、今年になりタイの軍隊による越境進軍がありました。

カンボジア国内ではタイ製品不買運動が盛り上がりつつあります。早く仲直りしてほしいものです。

2つ目は、国境沿いに特殊詐欺拠

点が増え、カンボジア内務省は4月のクメール正月までにアジトを一掃するべく摘発を急いでいます。こちらも、カンボジアのイメージアップを図ってほしい所です。



子どもたちに囲まれて

気がつけばもう帰国、あつという間の4週間でした。この時期カンボジアの最高気温は33度、寒い日本に慣れるまでしばらくかかりそうです。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめちゃう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば81年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。(活動のための諸費用含む)

- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】 ・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 ・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)



里親さんありがとう

多くの会員さんがカンボジアを訪問しました

根岸理事長がカンボジア滞在中(1月21日〜2月17日)、今回も多くの会員さんが訪問し活動を共にしてくれた。各人がそれぞれ渡航目的を持ち、支援と交流活動に力を注いでくれた。

■佐々木英介さん(東京都在住の会員)
1月22日〜2月18日、小学校訪問、里子訪問、会報取材、その他。

■五井瑞枝さん(神奈川県在住の会員)
2月4日〜14日、小学校訪問、里子訪問、その他。

■向田三代子さん(東京都在住の会員・理事)
2月7日〜12日、小学校訪問、里子訪問、その他。

■島田知美さん(シンガポール在住の会員)
2月10日〜13日、小学校訪問、里子訪問、その他。

■吉谷俊子さん(千葉県在住の会員)
2月11日〜16日、小学校訪問、里子訪問、その他。



里子訪問した五井さん



学校訪問した島田さん(左端)↓



⇒里子訪問した向田さん



⇒10年ぶりに里子に会った吉谷さん(右)



⇐お馴染みの五人衆(滝のあるドライブインで)

5つの小学校に井戸を寄贈

▶1月28日、根岸理事長、佐々木会員、現地スタッフが「クムール小学校」(トゥボンクモム州メモット郡・生徒数=109人)を訪問、「カンボジア教育支援西予」(代表=広瀬稔さん、愛媛県在住の会員)が寄贈した手押しポンプ式井戸の贈呈式と性能点検を行った。

▶1月28日、根岸理事長、佐々木会員、現地スタッフが「ポスターウム小学校」(トゥボンクモム州メモット郡・生徒数=368人)を訪問、山辺健一さん(千葉県在住の協力者)が寄贈した手押しポンプ式井戸の贈呈式と性能点検を行った。

▶1月28日、根岸理事長、佐々木会員、現地スタッフが「コンクロプー小学校」(トゥボンクモム州メモット郡・生徒数=67人)を訪問、匿名様が寄贈した手押しポンプ式井戸の贈呈式と性能点検を行った。

▶2月6日、根岸理事長、佐々木会員、五井会員、現地スタッフが「ソムボーセンチュイ小学校」(クラチェ州スヌオル郡・生徒数=211人)を訪問、「カンボジア教育支援西予」(代表=広瀬稔さん、愛媛県在住の会員)が寄贈した手押しポンプ式井戸の贈呈式と性能点検を行った。

▶2月6日、根岸理事長、佐々木会員、五井会員、現地スタッフが「ワット小学校」(クラチェ州スヌオル郡・生徒数=171人)を訪問、武藤和義さん・康代さん夫妻(長崎県在住の会員)が寄贈した手押しポンプ式井戸の贈呈式と性能点検を行った。

カンボジアでは都市から離れた僻村に水道がなく、水源は川や池の水(又は雨水)に依存して暮らしています。幸い地下40メートル掘ればきれいな水が確保できるので、皆さんからのご支援をお待ちしています。



ポスターウム小学校の井戸



クムール小学校の井戸



ソムボーセンチュイ小学校の井戸



コンクロプー小学校の井戸



雨水や池の水を水瓶に貯めて使う



ワット小学校の井戸

「神戸ユネスコ小学校」を訪問、プレゼントを届ける

1月26日、根岸理事長と現地スタッフが「神戸ユネスコ小学校」(コンボンチュナン州・生徒数=220人)を訪問、加藤義雄さん(神戸市在住の会員・元神戸ユネスコ協会会長)から依頼を受け、生徒全員に学用品セットを届けた。会員の佐々木さんが同行した。



生徒全員に学用品を届けました

生徒数220人のうち幼稚園児が65人とのこと、生徒数が年々増えているようだ。

生徒たちは学用品セットを手に取り、とても嬉しそうだった。

スマホのビデオ通話機能を活かし

根岸理事長がカンボジアに滞在中、スマホのビデオ通話機能を活かし、カンボジアにいる教育里子と日本にいる里親さんが、スマホ画面を見ながら対面した。



スマホを使い日本の里親さんと会話

2月10日、広瀬稔さん(愛媛県在住の会員)が里子ノン・サウリーちゃん(高校1年生)と、2月14日、岩崎和子さん(横浜市在住の会員)が里子チャウ・ウサー君(中学1年生)とスマホ画面で対面、交流した。

近年カンボジアのネット環境が改善され、自宅にいながら遠いカンボジアに住む教育里子とリアルタイムで会話できる素晴らしい時代になった。

「スピリチュアルコーディネーター協会」の皆さんがカンボジア訪問、小学校に遊具寄贈



生徒たちと記念撮影

2月11日、カンボジアを訪問中の「スピリチュアルコーディネーター協会」(東京都・団体会員)の皆さんが「ターロン小学校」(コンボンチュナム州プレイチョー郡・生徒数=430人)を訪問、ブランコ・滑り台・回転遊具を寄贈し、その贈呈式を行った。

本会から根岸理事長始め5名の会員さんが同行した。

同会は毎年この時期にカンボジアを訪問、小学校に遊具を寄贈している。感謝!!

佐々木さんと娘さん夫婦が7年ぶりにカンボジア訪問

1月21日〜24日、佐々木テルさん(宮城県在住の会員)と娘さん夫婦がカンボジアを訪問した。23日、佐々木さんとご主人(故人)が12年前に校舎を寄贈した「ソカーオン小学校」(コンボンチュナン州・生徒数=220人)を7年ぶりに訪問、生徒たち全員にお菓子セットをプレゼントした。

生徒たちは思いがけないプレゼントを喜んで、その後幼稚園が増設されるなど生徒数も増え、校舎も丁寧に使われている様子を見て、佐々木さんは安心して小学校を後にした。

借りたレンタカーがエンコしてしまい、娘さん夫婦が車の車(ピックアップトラック)の荷台に揺られて戻るアクシデントに見舞われたが、まさにカンボジアらしい出来事だった。



お菓子セットを寄贈した佐々木テルさん

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病氣や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在193人(1月末日現在)の子どもたちを教育支援している。

昨年より、奨学金配布を年6回から4回に変更(3月・6月・9月・12月)、教育里親への支援金額を、教育里親年会費の45%に当たる13,500円にした。3ヶ月に1回の支援金額は22,500円(現地通貨で9万リエル)(1ドル1150円程度で換算)。先生への謝礼は別途支払う。本来は3月だが、根岸理事長ら会員さんのカンボジア訪問に合わせて1ヶ月早く、2月7日~14日、現地スタッフ(2人)が25の援校を回り、里子たちに奨学金や教育里親からのプレゼントを届けた。毎日の里子訪問に会員さんが帯同し、サポートしてくれた。



写真: 右から
●ホン・キムヒョン君
●(里親は樋口さん)
●ジェン・ウイサル君
●(里親は中川さん)
●(里親は及川さん)
●(里親は辻さん)
●ウオン・ジェンジュリちゃん
●(里親は春本さん)
●チャンター・タリンちゃん
●(里親は増田さん)
●(里親はサムバット君)
●(里親はススキ製作所さん)

(チアシム小学校、オラル中学校、オラル高校に在学)

現地スタッフが里子に奨学金(教育支援金)を届けています

現地カンボジアでは、教育里子が通学する小学校(現在25校)を現地スタッフが3ヶ月に1回のペースで訪問、教育里親より頂戴した年会費の中から4回に分け、カンボジア通貨(リエル)に換金して奨学金を届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も卒業した小学校に集まり、奨学金を受け取っている。

2月7日~14日の間に2人の現地スタッフ(ドライバー含む)が各小学校を訪問し、奨学金と教育里親からのプレゼントを届けた。根岸理事長含む多くの会員さんが同行してお手伝いした。



⇒奨学金(教育支援金)を届けてました

里子へのプレゼントは随時受け付けています

- 国内では円安、現地カンボジアにおきましては物価が高騰しておりますので、やむを得ず里子へのプレゼント代を下記の通りに値上げさせていただきます。どうぞご理解のほど、よろしく願い申し上げます。
- 事務局に届いた里子プレゼントにつきましては、年に1~2回程度になりますが、空港から持参させていただきます。暫くお時間を頂きますので、なるべく海外送金可能な現金をお送りください。

現地購入品目一覧表

- 自転車(中古品) 9,500円
- お米(50キロ入り) 5,500円
- 通学用カバン 3,500円
- サッカーボール 3,000円
- ティシャツ2枚&サンダルセット 2,500円
- お菓子セット(お菓子の詰め合わせ) 1,500円
- 文房具セット(ノート、筆記用具類) 1,500円

※同封の振込票にてご送金をお願いいたします。



オンライン詐欺拠点(バベット・ベトナム国境)で外国人2千人超えを一斉摘発(1月30日)

投稿 坊主憎けりや袈裟まで憎い 根岸 恒次 (法人理事長)

タイとカンボジアの国境問題に端を発した紛争は昨年内に停戦となり安堵していたが、今年に入りタイ軍によるカンボジア国内への越境進攻が目に見えている。

国力や軍事力はタイがカンボジアを圧倒しており、まともに戦争したらタイが圧勝するのは目に見えている。

カンボジアとしては国際機関に提訴する以外の方法が見つからないようだ。

見かねたトランプ米大統領が仲介し、停戦しないと高関税をかける脅した事が功を奏したかどうか不明だが、どうもこの紛争の根はかなり深そうだ。

この件に関する日本の報道機関は主にタイ側からの情報に片寄っているせいか、「ケンカ両成敗」的なスタンスに終始しているように思われる。

しかし1月にカンボジアを訪問し、カンボジア人や地元情報に接する中で見てきたものは、なにやらロシアとウクライナで行われている戦争に通じる部分がありやしないだろうか、という事だ。

いわゆる20世紀型の、弱小国に対するいじめにも似た領土拡張主義のように映る。

一方で軍事力では歯が立たないカンボジアの人たちは、国内でタイ製品を買わない運動を展開していて、タイ経営のスーパーマーケットからカンボジア人が姿を消し、店内は在庫の山だ。

私たち日本人がカンボジアで愛用している「セブンイレブン」もタイの会社が経営しているため、カンボジア人はすっかり寄りつかなくなった。

昨年まであれ程繁盛していたのに、今や閑古鳥が啼いている。

現地スタッフと行動を共にする私たちは仕方なく、立ち寄るドライブインを「カルテックス」に変更した。

タイの会社やオーナーに罪はないのに、平然と身勝手な振る舞いをするタイの為政者に腹が立っている私である。

こうなればトコトン不買運動を展開し、ささやかな抵抗を試みてほしい。



タイ系列の店は軒並み閉店の憂き目に

日本から持参した寄贈品を子どもたちに届けました

山本信子さん(山口県在住の会員)と浅利敦子さん(東京都在住の会員)が寄贈してくれたおもちゃ、学用品、布製品などを根岸理事長や会員さんたちが手分けしてカンボジアに持参、2月7日~14日の現地スタッフによる奨学金配布活動期間中、集まった子どもたちに配布した。

子どもたちは、思いがけないプレゼントにとっても嬉しそうだった。



山本さんが寄贈した衣料品など

浅利さんが寄贈したおもちゃなど

投稿 こんにちは シコちゃん 今 紀子 (東京都在住 会員)

十数年前、スリランカで「戸籍」を取得するという活動をしている方のお手伝いをした事がある。戸籍があれば、学校にも行かれるし、仕事も選べる。

ひるがえって、私の元に「〇〇市役所、戸籍担当」という所から封書が届いた。

氏名とふりがなが書かれてあり、ふりがなは合っているが、名前の漢字が違っている。縦棒が上につきでているかいないかの違いなのだが、これは由由しき事だ。私たちが使っている一般的な辞書には載っていない字だ。書道関係の辞書を引くと、書家が作品を作る時、洒落た感じで使う事があるようだ。さらに古語辞典を綴って見ると、あつたぜ!

訓読みは同じだが、音読みが違う。全く別字なのだ。その旨を書いて、役所に訂正を願い出たが、未だに梨のつぶてだ。以前は、出席届は手書きと思われるので、届け出た人(誰だ?)が、いきおいあまって棒線が長く書いてしまったという事も考えられる。そういえば、私の誕生日が母から聞いた日と違っている。その日は、リンカーンを同じ日なので子供の私は無邪気に喜んでいただけけれど、戸籍の日付と違う。届けた人(誰だ?)が誕生日を書く欄に届け出た日を書いてしまった可能性が高い。二日もサバを読んで生きている。原本を見ていないから何とも言いようがない。両親も亡くなり確かめようもない。

若かりし頃、外国人のペンフレンドにアルファベットを一つつけ加えると「火星」という意味になる名前の人があった。ある日、突然、自分の名前が「火星」になったら彼はどうするだろう。日本の有名な詩人が「人は生まれながらにして名前という詩を持っている」と説いているとか。

いずれにしても、私は太陽系第3惑星の住人。誕生日も名前も戸籍と、ちょっと違う。こんな私に、とりあえず乾杯!

投稿 昔ポルポト、今トクリュウ 根岸 恒次 (法人理事長)

1月21日、約9ヵ月ぶりにカンボジアを訪問した。

その1週間位前だったろうか、日本の新聞に、カンボジアの南東部「バベット」で警察官を語った特殊詐欺に関わった20代~60代の男女13人がカンボジアから日本へ強制送還され、警視庁と神奈川県警に逮捕されたという記事が載っていた。

かけ子グループとして「バベット」で活動、十数件の特赦詐欺に関わり、約五千万円を騙しとった疑いがかけられている。

同じ日本人としてカンボジアに迷惑かけてすまない気持ちを抱えた訪問の始まりだったが、なんとこの事件は氷山の一角だった事が後々判明した。

お隣の韓国でも、カンボジアでサイバー詐欺に関わったとして73人が捕まり、1月26日に強制送還されていた。被害者は韓国内で869人、被害額は約33億円にのぼるという。

同時期に、職を求めインドネシアからカンボジアへ渡航、オンライン詐欺業務に従事させられたとして、インドネシア人約900人が「インドネシア大使館」に駆け込み救助を求めている。

ミャンマー人やフィリピン人も同様の訴えを起こしているようだ。

カンボジア政府は昨年度、詐欺の摘発で13,500人を国外退去処分にしたが、これは前年度の57%増しとのこと。

カンボジア政府も手をこまねているわけではない。フン・マネット首相が陣頭指揮を取り撲滅対策実施中だ。

一方で、何故カンボジアが詐欺の温床になってしまったのか疑問は残ったままだ。入国管理に甘さはなかったか?地元政治家や行政組織との癒着はなかったか?長かった内戦が終結し、ポルポト裁判も終わり、平和になった筈だったのに。

カンボジアのイメージアップのためにも、ここは関係各国と連携し、詐欺撲滅に力を入れて頂きたい。

注釈:トクリュウ=匿名・流動型犯罪グループの通称。

本会の会員状況をお知らせいたします
(2026年1月末日現在)

●教育里親会員	154名
●個人会員	51名
●団体会員	9団体
●寄付協力者(随時)	30名
合計	244名

書き損じハガキ・未使用切手
・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビール券やデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

事務局便り

理事長他会員の皆さんによるカンボジア訪問が無事終わりました。日本は真冬でしたが、カンボジアはさほど暑くなく快適でした。(最高気温30度前後)次回のカンボジア訪問は来年の2月〜3月頃を予定しています。ぜひご参加ください。

「お年玉募金」への協力誠にありがとうございました。38名の方より総額43万8千500円を頂戴しました。集まった募金はすべて、教育里子への奨学金(教育支援金)に充当しました。

次の会報(144号)は、6月中旬頃に発行する予定です。引き続きカンボジア訪問時の様子を中心に制作します。楽しみにお待ちください。

第24回定期総会を4月25日(土)10時より開催する予定です。Zoom参加はハードルが高いので、大半の会員さんにははがきによる委任状を返送して頂きますが、今回から返信はがきの署名欄を簡素化(住所と印鑑を省略)しましたので、宜しくお願いします。

活動に参加しませんか
正会員として

- 教育里親会員(年額3万円)
子どもたちへ直接払う年額
1万3千500円(45%)
- 会の運営に回す年額
1万6千500円(55%)
- 個人会員(年額5千円)
- 団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

* * * * *

会費・寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】
21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】
019支店 当座 01600916

【りそな銀行】
練馬支店 普通 40988265

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

春さんのカンボジアレポート
～カンボジアの求人広告～

カンボジアには職安のような機関がなく、職探しは口コミとか縁故、はたまた電信柱の求人チラシでしたが、最近SNSでの求人が出てきました。このJob Net Cambodiaには150社以上の企業が登録されています。宅配サービス求人では月収350ドルとあります。

縫製工場等の最低賃金が210ドル、商店の店員が150ドル前後ですので、なかなかいい金額です。それに4年間勤務すればバイク支給!とのこと。コロナ禍以後、街中に宅配サービスのバイクが走っています。

理事・会員 鈴木春男
(カンボジア・シェムリアップ在住)

(写真出典: Job Net Cambodia, Try Timex Group)



求人広告

米が獲れない山間部

米作に不向きな山間部では、それぞれ土壌に合った食料品や原材料が生産されている。「クラチエ州」や「トゥボンクモム州」などではゴム栽培、カシューナッツ、胡椒、キャッサバなどが生産され、農民らの大きな収入源になっている。



キャッサバ畑

早くも米栽培

カンボジアの米栽培は通常雨期が始まる5〜6月に田植えが始まり、乾期が始まる11月〜12月に稲刈りが行われる。しかし水が豊かにある「コンボンチャム州」などでは、年2回米を収穫出来る2毛作が行われている。灌漑用水が普及すれば、全土が2毛作になる可能性を持つ。



田植えが終わる

ウナロム寺院に慰霊碑が増えた

プノンペン市内にある「ウナロム寺院」には、33年前、国連主導で実施された選挙監視中銃撃されて亡くなった中田厚人さんを偲ぶ慰霊碑がある。最近その横に、内戦の最中ポルポト派に捕まり病死したとされる石山幸基さん(共同通信記者)の慰霊碑が2012年に完成、日本の首相や皇族が慰霊訪問している。興味ある方は是非訪ねてほしい。



ウナロム寺院慰霊碑

カンボジア

ある小学校を訪問すると、井戸の脇に自転車が置いてあった。先に聞くと、生徒たちが自転車をこくとモーターが作動し、上にある水槽タンクに水を送る事ができるそうだ。健康にも繋がり一挙両得。



人力モーター

日曜日に里子たちと面会しました

今回、カンボジア訪問の目的の一つに掲げたのは、高校を卒業し大学や専門学校に通っていたり、既に働いている教育里子(2月1日現在15名いる)全員に面会し、現状を里親さんにレポートすること。平日では会いにくいので、学校や会社が休みとなる日曜日に会いに行く計画を立てた。

その計画が功を奏し、カンボジア滞在中3度の日曜日を使い15人全員に面会できた。会員の佐々木英介さんが同行してくれた。

面会した里子の約半数が縫製工場等の会社で働いていた。「クメール教育里親基金」の枠外にはなるが、特例的に里親さんのご理解を頂き、支援と交流を兼ねたスタイルになっている。

最近のカンボジアは年5%以上の経済成長を続けており、縫製業は安定した主産業として若い人たちに人気がある。

しかしお話を聞くと、中々厳しい労働環境の中、家族を養うため身を粉にして働く健気な里子たちの生き様が垣間見、目頭を熱くした。

月給は国と労働組合の協定で210ドル(34,000円位)と決められており、2時間残業して300ドル(45,000円位)になるそうだ。

そこから通勤に使う車代やお昼代を差し引くと、残業しても250ドル(40,000円位)の手取りが相場ようだ。

世界の企業家は中国リスクを避け、賃金が安く政治が比較的安定しているカンボジアに目を付け、次々に新工場を建設している。この事自体は良い傾向だが、日本の「女工哀史」にも似た過酷な現状打開も考えてほしい。



昨年高校を卒業した里子など15人と面会しました



教育里親会員 入会申込書

年 月 日

氏名	ふりがな	生年月日	年 月 日
住所	〒	(TEL)	
備考	1. サポートして下さる子どもの人数 [] 人 2. サポートして下さる子どもの性別 ① 男の子 ② 女の子 ③ どちらでも 3. その他 [具体的に]		

*入会して下さる方は所定の事項をご記入のうえ、本会事務局までお送りください。